

アンドレイ・クラフツェビチ教授定年退職記念号に 寄せて

著者	和田 幹彦
出版者	法学志林協会
雑誌名	法学志林
巻	117
号	2
ページ	1-3
発行年	2020-03-24
URL	http://hdl.handle.net/10114/00024235

アンドレイ・クラフツェビチ教授定年退職記念号に寄せて

法学部長 和田 幹彦

アンドレイ・クラフツェビチ先生は、二〇〇〇年四月に法政大学第一教養部に教授としてご着任され、二〇〇三年四月に法学部教授に異動によりご着任されました。以来、二〇一九年三月末日をもって法政大学法学部を定年退職されるまで一九年にわたって、ご専門であるロシア（旧ソ連諸国）の地域研究・日露関係研究を中心に法学部政治学科の教授として教鞭をとられ、同時に法学部を含む市ヶ谷キャンパスの全ての学部 of 学生たちに第二外国語としてのロシア語を熱心に指導されるとともに、研究・教育さらには学内行政において多大な業績を残されました。

先生は、一九四九年一月にモスクワに生まれ、日本経済研究をご専攻として一九七二年にモスクワ国立大学経済学部国際経済学科を卒業されました。一九七六年にはソ連科学アカデミー東洋学研究所ポストグラジュエートコースを卒業され、翌一九七七年には、早くも博士の学位（経済学）を取得なさいました。

その前後の一九七六年からすでに、ソ連科学アカデミー東洋学研究所の研究員・日本経済課長を務め、一九八七年に、在日ソ連（一九九一年一二月からロシア連邦）大使館の一等書記官（経済分析担当）として来日・ご勤務され、かたわら、科学アカデミーの代表も務めておられました。一九九二年にはロシア科学アカデミー東洋学研究所の上級研究員に復帰され、一九九六年に同研究所の日本研究センター所長にご就任されておられます。同年一〇月からはロシア日本研究者協会理事も務められるようになりました。また、翌一九九七年から二〇〇〇年まではロシア日本研究

者協会会長という重責も担ってこられました。

この間も、一九九二年から一九九五年まで、慶応義塾大学・総合政策学部への訪問助教授を務められるなど、日本での研究・教育は続きました。

そして二〇〇〇年四月、法政大学第一教養部に就任して以来、我々の貴重な同僚として、本二〇一九年三月末まで教授の職を務めていただきました。

先生のご専門は多岐にわたります。私は専門ではありませんので必ずしも正確に理解しているとはいえないかもしれませんが、その中心的なテーマは、日本経済制度・企業制度の変遷を子細に分析し、ロシア語でご論文を公刊し続けたご研究、加えて日露経済の比較研究です。これらのご研究の成果の公刊は一九八一年に始まり、十編余りの共著書ほかのご論文があります。また英語でも三編、日本語でも六編のご論文があり、その研究の多様性と重要性が、想定される国際的な読者層からもうかがい知れます。

ご定年後は、本二〇一九年六月末に、モスクワ市にご帰国されました。今後も、日本経済についてのみならず、多角的見地からのご研究においでますますご活躍されるものと思います。かつての同僚の一人として、先生の益々のご健勝と一層のご活躍を念じてやみません。

後輩同僚である私の私的印象ではありますが、ここにぜひ、先生の気さくな、誰にも好かれるご性格についての小さなエピソードを記すことをお許しください。先生は、「クラフツェビチ」先生、というお名前が、なかなか日本人には覚えづらく、正しい発音も難しいことを早くから気付いておられたのか、法政大学では、少なくとも私の先輩同僚として法学部にご着任されて以後は、「自分のことは、『アンドレイ』と呼んでくれてよい」と公言され、学生からのみならず、法学部の同僚の皆からも、「アンドレイ先生、アンドレイ先生」と呼ばれて親しまれ、笑顔でいつもそ

れに伝えてくださいました。日本では皆が姓で呼び合うことが文化の一環として重要なことを言うまでもなく深くご理解された上で、ご自分はアンドレイ先生と呼ばれてよい、という個人的な生活哲学に、先生の温かいお人柄が感じられます。

先生の学内外での貢献に対して、法学部教授会は、ご退職直後の本二〇一九年度初頭に、先生を名誉教授に推薦することを決定し、大学よりその称号が授与されました。

本誌は、アンドレイ・クラフツェビチ先生の偉大な業績と活躍を讃えるとともに、法政大学、ことに法学部へのご尽力に対して、法学部教授会一同、深甚なる感謝の意を込めて先生に捧げるものです。